

「市原市子ども読書活動推進フォーラム2017 未来を拓け！ 読書でつながる いちはらっ子」事業報告

今年度の子ども読書活動推進フォーラム（以下、フォーラム）実行委員会では、例年行なっている講演会に加え、「ビブリオバトル」(*)の2部構成で、11月3日の文化の日に開催することとしました。講演者は、『12歳からの読書案内』の監修や幅広いジャンルの翻訳で知られる法政大学教授・翻訳家、金原瑞人（かねはらみずひと）さんに依頼。ビブリオバトルのバトラー6名を公募しました。

10月、フォーラムに先立ち、中央図書館館内では、講演者の金原瑞人さんの翻訳本や著書の展示とビブリオバトル関連の展示を行ないました。

そして迎えた当日、会場の市原市勤労会館 you ホールには老若男女153名が集いました。



■ 第1部 講演「翻訳家は裏切り者？ ～本のスリル、読書のチカラ～」金原瑞人



翻訳にまつわる興味深い話題をたくさん聞くことができました。

たとえば、伝統的に、和書は右開き、洋書は左開きということから、英訳の場合、和書では右頁に掲載されている絵を左頁に入れ替えたり、反転させたりします。そのときのデザインの難しさについて。反転させた結果、左手で刀剣をもつ侍や、左手に箸をもつ人物ばかりが登場し、日本人はサウスポーが多いと思われていると笑い話も紹介されました。

また、英語では、どのような人物でも動物でも一人称はすべて「I」。それを和訳する場合「I」に該当する日本語は「わたし」「僕」「おいら」「俺」、さらに名前などを含めると100種類以上の豊かな言葉があります。日本語の一人称からは性別や年齢、人物のアウトラインさえ推測できることがあります。ですから、「語り手の正体を最後に明かす作品の場合は考え込みます（ほとんどの場合「わたし」とする)」。海外文学への興味がさらに増す話題でした。

ほかに、日本の横書きの歴史や、小学校、中学校、高等学校と進むに従って読書人口が激減する話など、内容は多岐に亘り、講演時間があっという間にすぎました。

古い絵本やジョン万次郎の翻訳メモなど貴重な画像を見ながらの講演会、時にユーモアを交え、あるいは会場に質問をして挙手を求めるなど、笑い拍手に包まれた講演でした。

最後に金原さんからビブリオバトルにちなんで『漂白の王の伝説』（ラウラ・ガジェゴ・ガルシア//作 偕成社）が紹介されました。

活発な質疑応答がかわされ、第1部が終了しました。



■ 第2部 ビブリオバトル

登壇順はバトラー全員のじゃんけんで決まりました。市原市としては初めて開催するビブリオバトル。6名のバトラーの熱演は会場を大いに沸かせました。

全員の発表が終わり、参加者全員による投票がありました。

そして、開票結果を待つあいだ、金原さんの講評がありました。バトラー一人ひとりに向けて温かく楽しい講評の後、「6人それぞれ特徴があって、それぞれにみなさんがちゃんと想像して読んでいる。読みながらそれがリアルに頭の中で再現できている。それをちゃんと自分の言葉で表現できるというのは難しいこと。素晴らしかった。これからもいろいろな本を読んでください」と締めくくり、バトラーたちは大感激。



いよいよ投票の結果発表。チャンプ本は6番目に発表した『何様ですか?』(枝松 蛍//著 宝島社)に決定しました。壇上で各バトラーに表彰状と、金原さんから副賞の『12歳からの読書案内』サイン本が手渡され、最後に金原さんとバトラーたちの記念撮影を行い、今年度のフォーラムを無事終了することができました。

控え室に戻ったバトラーたちは、紹介本に添えるカードにキャッチコピーを書き込み、とても素敵なカードが出来上がりました。

■ ロビー



当日、ロビーでは市原市内で読み聞かせ活動を行なっている19団体の紹介カードを配布しました。

■ 図書館

フォーラム終了後は、バトラーたちが紹介してくれた本にそれぞれの力作カードを添えて、中央図書館館内にて展示・貸出をしました。



* ビブリオバトル=知的書評合戦。お気に入りの本を5分で紹介し、2分ほどの質疑応答の後、一番読みたいと思った本(チャンプ本)を参加者全員で決めるゲーム。